

塚田 紘一先生の退任によせて

小美野 喬

塚田紘一先生は、1966年4月より明星大学人文学部心理・教育学科助手として就任以来、専任講師、助教授、教授と昇格され、以来、今日に至るまで40有余年にわたり、明星大学において研究と教育に従事してこられ、2011年3月をもって定年退職されました。この間における先生のご活動は、この一文をもっては記しがたいほど様々な方面において、多大な影響を及ぼしてこられました。本文では、先生の多方面におけるご活躍を記すことができればと思い、私の学部時代の恩師としての始まりから教員の大先輩として今日に至るまで、公私ともに30数年におよびご指導いただいたご厚情に甘え、以下にそのご功績の一端を紹介させていただきます。

学内のご活躍について、先生は、心理学専修主任、通信教育部部長・課程長代行、人文学部長、そして図書館長を歴任されました。この間、心理学専修の教育・研究に相応しい環境づくりをめざし、今日の心理学科における開放的でありつつも厳粛な雰囲気を持つ研究室へとつながる礎を築かれました。また、通信教育部部長の時期においては、教育・研究者であるとともに経営責任者のお立場から、学生の多様化に合致したカリキュラムの改定、大学院新設に向けての準備、大学出版部における出版物刊行の活性化、あるいは職員への処遇改善を成し遂げてこられました。さらに先生は、人文学部長の在任中、少子化による大学入学者の減少化と新設大学の急増期を迎え、これらへの対応策として大学改革や学部改編に努め、今日に至る道筋を明示されました。図書館長の職にあつては、旧来の図書館観を一掃してしまったかのように、学生が長時間にわたり利用しやすく、しかも多様な情報収集を可能とする開放性を指向した新図書館に相応しい利用法を構築されました。

さらに、先生は、学外的にも重責を果され、多摩市教育委員会において発達心理学と教育心理学といったご専門の立場から当時としては斬新な地域住民参加型の会合を主導され、あるいは、大学運営上の豊富な知識と経験を生かし、本大学近郊にある「大学セミナーハウス」の維持・管理にかかわる企画委員として参画され、学内ばかりでなく地域社会に対しても貴重な貢献をしてこられました。

教育者としての業績について、先生は、理性と情熱の二つをもって臨んでこられました。教育者としての先生は、これまでに400名を超える門下生を輩出され、厳格な指導は当然のことながら、これと併存する家庭的とでもいふべき独特の雰囲気のもと、卒業生ばかりでなく現役学生の間から「塚田ファミリー」として親しまれ、慕われてきました。また、先生は、「いわき明星大学」の開学から完成年度までの4年間、兼任講師として毎週1泊2日で出講され、第1回生の入学から卒業までをつぶさに見てこられました。従って、今回の東日本大震災について、被災されたかつての教え子達への先生の思いは、如何ばかりであったか想像に難しくありません。

先生の研究者としてのご専門は、教育学に根ざした心理学であろうかと思います。その一端は、先生が「国語」の高等学校教諭免許取得者であることと、厳格なドイツ系教育学研究途上で育まれたドイツ語の堪能な使い手であることからうかがい知ることができます。先生は、研究者として出発された当初から、ドイツ系の教育学と世界を代表する心理学者であるJ. Piagetの発達研究を主とする心理学を融合させた教育心理学を専門領域と定め、この研究姿勢を首尾一貫してとり続けてこられました。この研究姿勢は、本学人文学部心理・教育学科発足当初の基本理念と完全に一致するものであり、先生の本学への就任は、したがって、必然的であったように思われます。先生は心理学と他分野との学際的研究にも関心を持たれ、心理学者のお立場にある先生と社会学者(堤史朗)、健康スポーツ科学者(綿貫敏雄)および私を含めた4名によるコードモの「遊び」に関する2年近く継続した学内共同研究の作業は、先生の厳格な学問的姿勢を学ぶことができた歓びとともに、その誠実なお人柄を身近に知り得た素晴らしい体験となりました。

先生は、一方で厳密な中にも寛容を取り込みながらの白熱した議論を好まれるだけでなく、他方では純情極まりなき家族思いであり、また、多様な趣味をお持ちです。先生のご出身地は、奥様とともにお二方のご両親も富山と伺っていました。先生は自動車の運転が巧みで、多忙の合間に時間を取ってはご両親のために、成長してゆく二人のお子さんを同乗して、帰省してお

られました。上京後、ご家族ができてからの帰省は30数年間続いている勘定になりますが、お子さんを同乗しての帰省は、お子さんの成長や結婚とともにやがて漸減していったはずなのに、ご夫婦だけの帰省は現在に至っても連綿として続いています。この間の帰省の割合は、平均して1月に一回とのこと、かくも高頻度の訳をお尋ねしたところ、「両親の健康伺い」とのことであり、この一事をしても先生のお人柄を知ることができます。

ご趣味に至っては、漢詩の鑑賞から囲碁、麻雀、硬式テニス、社交ダンス、ラグビー観戦、園芸、野良猫行儀訓練、水琴窟作り、表面張力研究、日本酒研究、溪流釣りまで多方面に及びます。特に溪流釣りについてはご一緒した手前、数えきれないほどの秘話がありますが、八ヶ岳水系、利根川水系、道志川、桂川のほか、奥飛騨川などへの早春から梅雨期、盛夏から晩秋にわたる釣行の経験は、同行できたことへの感謝や喜

びといったものだけでは語り尽くせぬものがあります。

先生が明星大学において長年にわたり成し遂げてこられた業績の数々は、すなわち、明星大学および心理学研究室的誕生から今日に至る歴史そのものです。我が大学は、新たな歴史構築に向けて今何が必要とされているのか、これへの最適解創出に関してヒントをいただける方は、揺籃期を経て今日に至る大学の歴史を創ってこられた先生をおいて他に見当たりません。先生からは、このような期待は迷惑千万、けしからん、とお叱りを受けることは覚悟の上ですが、お元気な大音声によるご示唆を熱望するあまりの所業としてお許し願うばかりです。

あらためて、先生には、長い年月にわたり心理学研究室教職員に向けた誠実で温かなご指導とご鞭撻に対し、心理学研究室的の教職員全員を代表して、深く感謝と御礼を申し上げる次第でございます。



2009年4月 心理学科教職員集合写真
(前列右から2人目が塚田紘一名誉教授)